



# E

## SANtricity commands

NetApp  
June 17, 2025

# 目次

E	1
コントローラのデータ転送を有効にする - SANtricity CLI	1
サポートされているアレイ	1
ロール	1
構文	1
パラメータ	1
最小ファームウェアレベル	1
ディスクプールのセキュリティを有効にする - SANtricity CLI	1
サポートされているアレイ	1
ロール	2
コンテキスト (Context)	2
構文	2
パラメータ	2
注:	2
最小ファームウェアレベル	2
AutoSupport を有効または無効にする (すべての個別アレイ) - SANtricity CLI	2
サポートされているアレイ	2
ロール	3
コンテキスト (Context)	3
構文	3
パラメータ	3
検証	3
最小ファームウェアレベル	3
外部セキュリティキー管理を有効にする - SANtricity CLI	4
サポートされているアレイ	4
ロール	4
コンテキスト (Context)	4
構文	4
パラメータ	4
注:	5
最小ファームウェアレベル	5
ストレージアレイ機能の有効化 - SANtricity CLI	5
サポートされているアレイ	5
ロール	5
コンテキスト (Context)	6
機能キーを有効にする構文	6
機能パックを有効にする構文	6
試用期間用に機能を有効にする構文	7
最小ファームウェアレベル	7

ボリュームグループのセキュリティを有効にする - SANtricity CLI	7
サポートされているアレイ	7
ロール	7
構文	7
パラメータ	7
注：	7
最小ファームウェアレベル	8
非同期ミラーペアの確立 - SANtricity CLI	8
サポートされているアレイ	8
ロール	8
コンテキスト（Context）	8
構文	8
パラメータ	9
注：	9
最小ファームウェアレベル	9
ストレージアレイのセキュリティキーのエクスポート - SANtricity CLI	9
サポートされているアレイ	9
ロール	10
コンテキスト（Context）	10
構文	10
パラメータ	10
注：	10
最小ファームウェアレベル	11

# E

## コントローラのデータ転送を有効にする - SANtricity CLI

enable controller dataTransferコマンドは、診断の実行中に休止されたコントローラを再起動します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 構文

```
enable controller [(a|b)] dataTransfer
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	回復するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みます。コントローラを指定しないと、ストレージ管理ソフトウェアから構文エラーが返されます。

### 最小ファームウェアレベル

6.10

## ディスクプールのセキュリティを有効にする - SANtricity CLI

enable diskPool securityコマンドは、セキュアでないディスク・プールをセキュアなディスク・プールに変換します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)



ディスクプールを構成するすべてのドライブがセキュリティ対応である必要があります。

## 構文

```
enable diskPool [<em>diskPoolName</em>] security
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	Security Enabled状態にするディスクプールの名前。ディスクプールの識別子は角っこ ([]) で囲みます。

## 注：

ディスクプール名は一意である必要があります。ユーザラベルには、英数字、アンダースコア (\_)、ハイフン (-)、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

# AutoSupport を有効または無効にする (すべての個別アレイ) - SANtricity CLI

このコマンドは、ストレージアレイのAutoSupport (ASUP) 機能を有効または無効にし、テクニカルサポートサイトへのメッセージ送信を可能にします。ASUP機能を有効にすると、サポート関連データを収集してテクニカルサポートに送信できるように、ASUP対応のストレージアレイが自動的に準備されます。このデータは、リモートでのトラブルシューティングや問題の分析に使用できます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

この機能を有効にしたあとに、必要に応じてAutoSupport OnDemand機能を有効にし、さらに必要に応じてAutoSupport リモート診断機能を有効にすることができます。

次の3つの機能は、この順序で有効にする必要があります。

1. \* AutoSupport を有効にします。\*
2. \* AutoSupport OnDemand\*を有効にします
3. \* AutoSupport Remote Diagnosticsを有効にします。\*

## 構文

```
set storageArray autoSupport (enable | disable)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
'enable	disable

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport enable;"

SMcli completed successfully.
```

## 検証

このAutoSupport 機能を有効にしたかどうかを確認するには、「show storageArray autoSupport」コマンドを使用します。表示される出力の最初の行に、有効化のステータスが表示されます。

```
The AutoSupport feature is enabled on this storage array.
```

## 最小ファームウェアレベル

7.86 -モデルE2700およびE5600までのすべてのストレージアレイ用のコマンドが追加されました

8.40 - E2800およびE5700のサポートが追加されました

# 外部セキュリティキー管理を有効にする - SANtricity CLI

enable storageArray externalKeyManagement file コマンドは、フルディスク暗号化ドライブを持つストレージ・アレイの外部セキュリティ・キー管理を有効にし、初期ドライブ・セキュリティ・キーを作成します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

## 構文

```
enable storageArray externalKeyManagement
file="<em>fileName</em>"
passPhrase="<em>passPhraseString</em>"
saveFile=<em>(TRUE | FALSE)</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
'file'	<div>新しいセキュリティキーを格納するファイルパスとファイル名。ファイルパスとファイル名は二重引用符（" "）で囲みます。例：</div> <div><pre>file="C:\Program Files\CLI\sup\drivesecurity.slk"</pre></div> <div><div></div><div>ファイル名の拡張子は「.slk」でなければなりません。</div></div>

パラメータ	説明
パスフレーズ	セキュリティキーを外部ファイルに格納できるように、セキュリティキーを暗号化する文字列。パスフレーズの文字列は二重引用符（""）で囲みます。
「saveFile」を参照してください	セキュリティキーを検証してファイルに保存します。保存しない場合は'FALSE'に設定し'ファイルのセキュリティ・キーを確認しますデフォルト値は「true」です。

## 注：

パスフレーズは次の条件を満たしている必要があります。

- 8~32文字で指定する必要があります。
- 大文字を1つ以上含む。
- 小文字を1つ以上含む。
- 数字を1つ以上含む。
- 英数字以外の文字（<>@+など）を少なくとも1文字含める必要があります。



パスフレーズがこれらの条件を満たしていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

## 最小ファームウェアレベル

8.40

8.70で'saveFile'パラメータが追加されました

## ストレージアレイ機能の有効化 - SANtricity CLI

enable storageArray feature file'コマンドを使用すると'ストレージ・アレイへの永続的なアップグレードまたは試用期間用の機能を有効にできます

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。



## コンテキスト (Context)

このコマンドは、次のいずれかの処理を実行します。

- 機能を永続的にアップグレードするための機能キーを有効にします
- 機能パックを永続的にアップグレードするための機能キーを有効にします
- 試用期間用の機能を有効にします

機能パックは、ストレージパーティショニングや同期ミラーリングなど、あらかじめ定義された複数の機能のセットです。これらの機能は、ユーザの利便性を高めるために統合されています。機能パックをインストールすると、機能パックのすべての機能が一度にインストールされます。

各機能は、特定の機能または機能パックおよび特定のストレージアレイ用に生成されたライセンスキーによって管理されます。ライセンスキーは、機能のライセンスを適用するために実行するファイルとして提供されます。

ストレージ・アレイにロードされる機能を確認するには'show storageArray features'コマンドを実行します。show storageArray features'コマンドは'ストレージ・アレイにインストールされているすべての機能を一覧表示します。これらの機能は'試用期間'有効な機能'および無効な機能について評価できます。

## 機能キーを有効にする構文

```
enable storageArray feature file="<em>filename</em>"
```

'file'パラメータは'有効な機能キー・ファイルのファイル・パスとファイル名を識別します。ファイルパスとファイル名は二重引用符（" "）で囲みます。例：

```
file="C:\Program Files\CLI\dnld\ftrkey.key"
```

機能キー・ファイルの有効なファイル名は'.key'拡張子で終わります。

有効にする機能ごとに機能キーファイルが必要です。

## 機能パックを有効にする構文

```
enable storageArray featurePack file="<em>filename</em>"
```

'file'パラメータは'有効な機能パック・ファイルのファイル・パスとファイル名を識別します。ファイルパスとファイル名は二重引用符（" "）で囲みます。例：

```
file="C:\Program Files\CLI\dnld\ftrpk.key"
```

機能キー・ファイルの有効なファイル名は'.key'拡張子で終わります。

## 試用期間用に機能を有効にする構文

```
enable storageArray feature=<em>featureAttributeList</em>
```

試用期間の機能を評価するには、「featureAttributeList」に次の属性値を1つ以上入力します。複数の属性値を入力する場合は、値をスペースで区切ります。

- ・「ドライブセキュリティ」

## 最小ファームウェアレベル

8.25で、有効ではなくなった属性がすべて削除されました。

## ボリュームグループのセキュリティを有効にする - SANtricity CLI

「enable volumeGroup security」コマンドは、セキュアでないボリュームグループをセキュアなボリュームグループに変換します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
enable volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] security
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	Security Enabled状態にするボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。

## 注：

このコマンドを正常に実行するには、次の条件を満たしている必要があります。

- ボリュームグループ内のすべてのドライブがFull Disk Encryptionドライブである必要があります。
- ドライブセキュリティ機能を有効にする必要があります。
- ストレージアレイのセキュリティキーを設定する必要があります。
- ボリュームグループが最適状態であり、リポジトリボリュームが含まれていない必要があります。

コントローラファームウェアによってロックが作成され、FDEドライブへのアクセスが制限されます。FDEドライブには、Security Capableという状態があります。セキュリティキーを作成すると、状態はSecurity Enabledに設定され、これによって、ストレージアレイ内に存在するすべてのFDEドライブへのアクセスが制限されます。

## 最小ファームウェアレベル

7.40

## 非同期ミラーペアの確立 - SANtricity CLI

Establish asyncMirror volumeコマンドは'既存の非同期ミラー・グループにセカンダリ・ボリュームを追加することにより'リモート・ストレージ・アレイ上の非同期ミラー・ペアを完成させます

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

このコマンドを実行する前に、非同期ミラーグループが存在している必要があります。非同期ミラーグループにプライマリボリュームが存在している必要があります。このコマンドが正常に完了すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの間で非同期ミラーリングが開始されます。

非同期ミラーペアを構成する2つのボリュームは、単一のエンティティとして機能します。非同期ミラーペアを確立すると、ミラーペア全体に対して処理を実行でき、2個のボリュームを個別に処理する必要はありません。

### 構文

```
establish asyncMirror volume="secondaryVolumeName"
asyncMirrorGroup="asyncMirrorGroupName"
primaryVolume="primaryVolumeName"
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	セカンダリボリュームに使用する、リモートストレージアレイ上の既存のボリュームの名前。ボリューム名は二重引用符 (") で囲みます。
「asyncMirrorGroup」	非同期ミラーペアの格納に使用する既存の非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は二重引用符 (") で囲みます。
「primaryVolume」	プライマリボリュームに使用する、ローカルストレージアレイ上の既存のボリュームの名前。ボリューム名は二重引用符 (") で囲みます。

### 注：

非同期ミラーペアは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの2つのボリュームで構成され、同じデータの同一のコピーが含まれます。ミラーペアは非同期ミラーグループの一部です。これにより、ミラーペアは、非同期ミラーグループ内の他のミラーペアと同時に同期できます。

名前には、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

プライマリボリュームとセカンダリボリュームを選択するときは、セカンダリボリュームのサイズをプライマリボリューム以上にする必要があります。セカンダリボリュームのRAIDレベルをプライマリボリュームと同じにする必要はありません。

## 最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

## ストレージアレイのセキュリティキーのエクスポート - SANtricity CLI

「export storageArray securityKey」 コマンドは、ドライブセキュリティキーをファイルに保存します。

### サポートされているアレイ

外部キー管理が有効になっている場合、このコマンドはE4000、E2800、E5700、EF600、およびEF300のアレイにのみ適用されます。内部キー管理が有効になっている場合、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、コマンド環境 は個々のストレージアレイを対象とします。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

あるストレージレイからキーファイルがエクスポートされたときに、そのキーを別のストレージレイにインポートできます。これにより、ストレージレイ間でセキュリティ対応ドライブを移動できます。



このコマンドは、内部と外部の両方のキー管理を環境に行います。

## 構文

```
export storageArray securityKey  
passPhrase="<em>passPhraseString</em>"  
file="<em>fileName</em>"
```

## パラメータ

パラメータ	説明
パスフレーズ	セキュリティキーを外部ファイルに格納できるように、セキュリティキーを暗号化する文字列。パスフレーズは二重引用符 ("" ) で囲みます。
'file'	セキュリティキーの保存先となるファイルパスとファイル名。例： <div><pre>file="C:\Program Files\CLI\sup\drivesecurity.slk"</pre></div> <div> ファイル名の拡張子は「.slk」でなければなりません。</div>

## 注：

ドライブの移動先となるストレージレイには、インポートするドライブ以上の容量を持つドライブが必要です。

コントローラファームウェアによってロックが作成され、Full Disk Encryption (FDE) ドライブへのアクセスが制限されます。FDEドライブには、Security Capableという状態があります。セキュリティキーを作成すると、状態はSecurity Enabledに設定され、これによって、ストレージレイ内に存在するすべてのFDEドライブへのアクセスが制限されます。

パスフレーズは次の条件を満たしている必要があります。

- 8~32文字で指定する必要があります。
- 空白を含まない。
- 大文字を1つ以上含む。
- 小文字を1つ以上含む。
- 数字を1つ以上含む。
- 英数字以外の文字（<>@+など）を少なくとも1文字含める必要があります。



パスフレーズがこれらの条件を満たしていない場合は、エラーメッセージが表示され、コマンドを再試行するように求められます。

## 最小ファームウェアレベル

7.40

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。